第 19 期京都教師塾　塾生通信

学びの広場

京都市教育委員会
教員養成支援室
令和７年１月１１日　No.7

第６回京都市教育学講座

教員養成支援室　初田　幸隆　参与

『教師に求められる資質・能力とは　～自己理解を深め、目標を明らかにする～』

第6回は講義とロールプレイングを伴った講座でした。はじめに、児童の遅刻に関する指導場面のロールプレイングを行いました。ロールプレイングの観察者であった塾生からは、「一方的に指導するのではなく、なぜ遅刻したのか、児童の思いを聴きとった方がよい。」「声の大きさや表情を柔らかくして指導した方が児童も安心できる。」と様々な視点からの意見が出て、どのように指導を改善したらよいか活発に議論することができました。また、代表者によるロールプレイングの他に、塾生が教師役や生徒役に分かれ、教育相談場面のロールプレイングなども行いました。これらのロールプレイングや講義を通して、否定しないでまず「受容」することや、「否定質問・過去質問」をするより「肯定質問・未来質問」で問いかけるといったコーチングスキルについて学ぶとともに、自身のコミュニケーション力といった非認知能力を省みることができました。自己への理解を深める中で、教師を目指していく上で今後どのような力を付けていったらよいか、自身の目標をしっかりと立てている塾生も見られました。

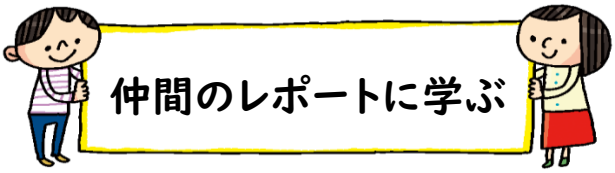
講座の様子

特別講座③

総合育成支援課 藤田　昌資　首席指導主事

『京都市における一人一人の教育的ニーズに応じた支援の実現に向けて』

特別講座③では、一人一人の教育的ニーズに応じるための指導・支援体制や京都市が大切にしている取組についてご講義いただきました。子どもの表面に現れる行動が全てではなく、本人の経験や特性、環境・状況など、実態を丁寧に把握すること、そして、子どもを「できる存在」として捉え、スモールステップを踏みながら、子どもの「できる」を増やしていくことの大切さを説かれました。また、集中するための工夫や指示・板書の工夫など、全ての子ども達にとっての支援となる「授業におけるユニバーサルデザイン」の具体についても学ぶことができる講座です。



このコーナーでは、「レポート集」に綴られた素晴らしい学びの1ページを紹介します。
ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

第6回京都市教育学講座

教師に求められ資質・能力とは　～自己理解を深め、目標を明らかにする～　を受講して

ロールプレイングを実践してみて自分自身の言葉選びや言語化能力の無さをひしひしと感じた。これまでの教師塾で生徒の背景を考えた上で生徒に接することの大切さを学び、意識していたがそれは意識していた“つもり”にすぎず、実際にロールプレイングをしてみると生徒に伝えたい言葉がなかなか出てこなかったり、生徒から引き出したい言葉になかなかたどり着かなかったりする状況にぶつかった。今回、頭の中では意識していても実際の行動に自分の意識が素直に現れてくれないことを実感したため、今後もロールプレイングを教職の勉強に継続的に活用して今回直面した課題を克服していきたい。また、全体会で遅刻した生徒に対してクラス全員の前で叱るべきかどうかについて様々な意見が飛び交っていたように、一人一人が考える「こうした方が良い」という指導の仕方は人それぞれであると感じた。学校現場の場面指導として正解と言える指導があるのかもしれないが、担任になった際はその当事者の子やクラス内の雰囲気から見た現状を把握した上で指導の仕方を試行錯誤しながら粘り強く考えて続けていきたい。

教育相談のロールプレイングを行った後のグループワークでは、生徒がたくさん話せるようにする状況を作ることが大切だと共感し合った。生徒の言葉を「聴く」ことに重点を置き、普段の学校でのその子の様子を見ているだけでは分からないその子自身の思いを知れるようにする。そのために、生徒が話しやすい関係性を日頃から構築したり、相談中は教師がリードして話の展開を進行したり、生徒の言語化をサポートする助言を心掛けるなどの教師側の準備や配慮が、教師にとっても生徒本人にとっても中身が充実した教育相談にするための鍵を握っていると考えた。

ロールプレイングを通して実際に場面指導を実践し、そのあと他者との振り返りを通じて意見交換を行ったことで、自分自身に足りていない教師としての課題を新たに見つけることができた。生徒のことを考えた思いやりを持った接し方は塾でのアルバイトや学生ボランティアを通じて意識的に行っていたが、今回のロールプレイングでは思った以上に上手くいかなかったのでさらなる自分の高みを目指して教職の勉強に励んでいきたい。

日頃から思いやりをもった接し方を心がけている様子が伝わってきます。一方で、今回のロールプレイングをとおして、伝えたい言葉が出てこなかったり、生徒から引き出したい言葉にたどり着かない状況にぶつかったりするなど、講座の目的の一つでもあった「自らの人間関係力を見つめ直す」よい機会となりましたね。遅刻指導の場面では「叱る」ことの是非ではなく、状況を把握したうえで考えていこうとしている点も、今後へつなげていこうとする「未来・肯定」の思考であり、講義からの学びが生きていますね。「教師は社会との窓口」という話もありました。教育は子どもたちがなりたい自分に近づくために行動する力、自由の獲得のためにあるのだということも心にとどめながら、人間関係力に磨きをかけてくれることに期待しています。

～クラス担当スタッフからのコメント～

次回は、京都市教育学講座⑧
パネルディスカッション『先生を目指す塾生に期待すること　～保護者の立場から～』

小学校、中学校、総合支援学校にお子さんが通われている3名の保護者の方をお招きし、パネルディスカッションを行います。学校や先生との関わりにおいて印象に残っている出来事や、保護者として学校や先生に期待することなどをテーマにお話いただきます。パネルディスカッションを通して、保護者の方の学校や教師に対する思いを知るとともに、保護者の方からも信頼される教師とはどのような教師なのか、考えるきっかけにしてほしいと思います。